

マイトーク MY TALK

第8号

発行：中央大学放送研究会OB会（会長／藤原尚武）

住所：〒192-0351 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付

発行日：平成16年5月

放研創立50年を記念して各種の事業が行われました。

◆記念式典

平成十四年八月三日（土曜）午後一時から、西新宿の京王プラザホテル「コンコールドーム」で記念式典を開催しました。

出席者は、来賓、現役、OBで一二〇名余り。式典の司会は、石森亜美さん。さすがは現役のアナウンズ部長、プロのアナウンサーなども含めた大勢の先輩達を前に、落ち着いたナレーションで式典の進行を行いました。

放研会長の加賀美鉄雄法学部教授の挨拶に続き、来賓の三宅邦彦常任理事の祝辞を戴きました。

OB会を代表して藤原会長から現役の清水委員長



記念式典で挨拶する加賀美教授

◎記念事業

◆現役への記念品

創立五十周年記念事業の一環として、現役の会活動で活用できるものをとということで、高性能のデジタルビデオカメラを送ることとしました。パーテ

へ記念品が贈呈された。

砂岡幹事長から、記念事業として、懸賞付の記論文募集及び永久保存テープのデジタル化事業を行う旨の報告がありました。

最後に現役による記念作品としてラジオドラマ、放送されました。

◆記念パーティー

式典に引き続き、現役の山口前委員長の軽妙な会で懇親パーティーに入りました。

久しぶりに全国から集まったOBの懇談も佳境に入った頃、音研のスウィング・クリスタル・トリオの演奏に入りました。このコンボは、この日のパーティーのために結成したもので、スウィング・クリスタルOBの板垣光弘氏（全国のライブハウスで奏活動をしているプロのピアニスト）をリーダーとして現役のドラム、ベースで編成しました。

元ニッポン放送の深夜放送の人気キャスターとして一世を風靡した斎藤安弘氏の司会はさすが年季入ったものでした。

最後は、スウィング・クリスタル・トリオの伴で、「校歌」に続いて、「惜別の歌」を全員で合唱し、再会を約束し、近内紀久子副会長の締めで散会となりました。

イーでは、藤原会長から、目録のみ贈呈しました。その後、現品が会に届き、番組制作時にフル稼働しました。作品の一部は、春、秋の番組発表会で披露されました。

◆永久保存テープのデジタル化

放送劇コンクール出品作品、朗読、ディスクジョッキー、ドキュメンタリー、コンサートの生録等々、現役時代の貴重な記録の保存テープが、二百本余り会室で埃を被っていました。

昭和四十年代の大学紛争による会室閉鎖の時期も乗り越えて保存されていた、半世紀に渡る貴重な資料ではありますが、オープンリールを再生できる機材が無いことから、会室の隅に放置されていたのも止むを得ません。

また、テープの劣化も予想され、このままでは、廃棄される運命にありました。

五十周年を期に思い切ってデジタル化を行い、劣化を防ぐとともに、CDコンポで容易に再生でき

るように、CDに焼き直すこととしました。

CD化にあたっては、タイトルとテープ内容の照合、劣化状況の確認、リストの作成等のため、三百本近くの全保存テープの試聴という膨大な時間と労力を要する作業が必要でした。この作業を一人でやり遂げてくれた12期の河口友彦氏に改めてお礼を申し上げます。

なお、この試聴のために八期の熊倉勝利氏からソニー製のテープレコーダーを提供して戴きました。三百本の試聴を終えたところで、モーターの部品が磨耗してしまい、使用不能になってしまいました。メーカーにも補修部品は残っていないというところで、修理はできませんでした。紙面を借りてお詫び申しあげます。

◆保存テープの頒布

CDになった保存作品のコピーを希望者にお送りします。(有料)

詳しくは、最終ページの「CDの申込み方法」をご覧ください。

◆寄付金募集

五十周年記念事業の資金として、寄付の募集をいたしました。

御寄付戴いた方は、一二三名で、合計、百二十万五千円に達しました。ご協力に感謝致します。

主な用途は、CD化事業(約三十万円)、現役の記念品(約三十万円)、記念論文募集(約二十万円)、パーティー補助(二十万円)などです。

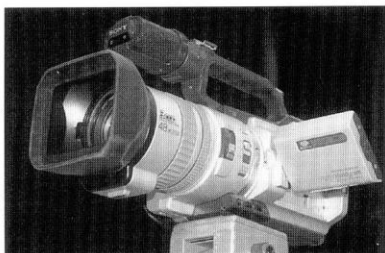
創立50周年の記念品をいただきました。

2004年度運営委員長 54期 赤松卓朗

一昨年の夏に、OB会の皆様から放送研究会創立50周年の記念品としてソニー製のビデオカメラDC-RVX2000をいただきました。このカメラは家庭用DVカメラの最高峰として広く知られています。

現役では、このカメラを使ってドラマの撮影、学内ニュースの制作など行方にあたり、画質、機能面の充実したこのカメラを大変重宝しています。現役にこのような記念品をいただき、本当にありがとうございました。年2回、メンテナンスに出して今後も大切に使用させていただきたいと思ひます。

最後になりましたがこのような記念品をいただき、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



現役への記念品

記念論文募集結果

50周年記念行事の一環として「10年後のマスコミ像…放送、出版、インターネット」のタイトルで記念論文を募集しました。

応募件数は4件でした。審査委員(篠田庄司理工学部教授、加賀美鐵法学部教授及び藤原尚武OB会長)の審査の結果、残念ながら最優秀賞に該当する論文はありませんでした。

審査結果は次のとおりです。

優秀賞 清水厚志君(文学部社会学科)

佳作 稲川亮輔君(法学部国際企業関係法律学科)

佳作 小松裕介君(法学部法律学科)

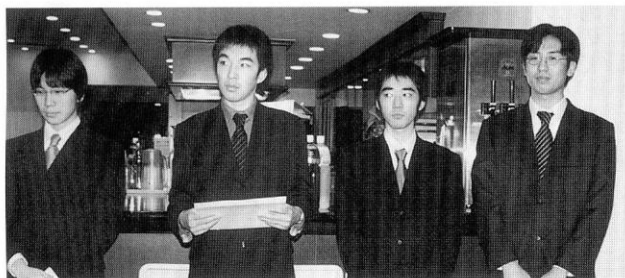
佳作 庄司直樹君(法学部法律学科)

表彰式

平成15年2月8日、中央大学駿河台記念館において、OB、現役の多数出席のもと、記念論文の表彰式が行われました。

表彰状と副賞の賞金(優秀賞5万円、佳作3万円)が贈呈されました。

また、この席で、CD化事業に多大な尽力を戴いた12期の河口友彦氏に感謝状が渡されました。なお、論文については、OB会ホームページに収録する予定です。



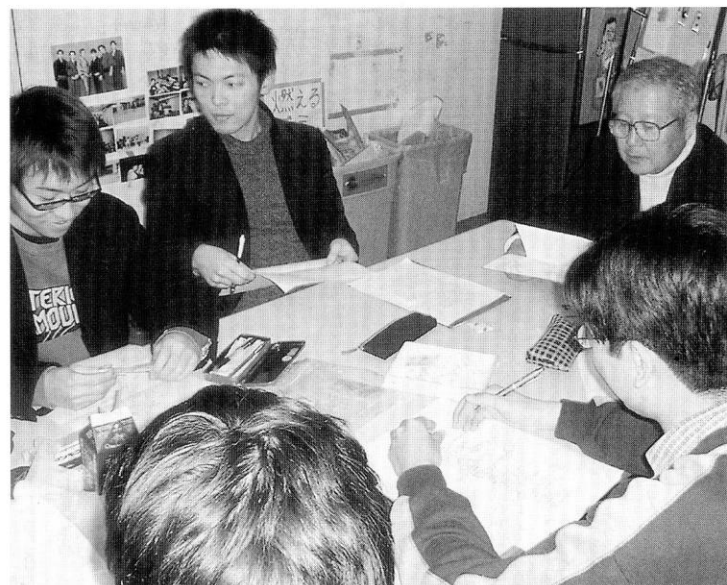
「現役と話す」

8期 藤原尚武

「放研五十年」を機に、現役と話す会を始めて、三年目になる。厳しい就職戦線の中で、何か役に立てれば、と思い、大学で余り教えない一般常識や時事問題を中心にして、「話し方を磨こうじゃないか」と、会を進めている。私は今、様々な大学・専門学校で「話し方」の講座を担当しているが、とにかく、今の学生、話が苦手だ。話が苦手だから面接が怖いと言う。放研の現役も例外ではない。

「仲間同士」では、明るく、ユーモアにあふれ、大きな声で話しているのに、いざ改まって、人前で話そうとすると言葉が出て来ない。「仲間言葉」なら気も楽なので、「先生知ってますか」「聞いていいですか」「この前来た時、先生は…」になる。私は少々異和感があるのですが…。

この話を、最近、三十代の若い教師に話した時、「藤原さんも古いなあ、私など、そう言われても何の異和感もありませんね。むしろ仲間と認められてよかったですよ。」私は、古いのか。「ご存知ですか」「おたずねします」、「いらっしゃる」、といった言葉は、授業では余り使われていない様だ。「TVでもそうじゃないですか」「キャスターや評論家も、知ってます？ 聞きますけど…が多いですよ」と言うのである。成程、「見てくれてありがとう」というタレント「頑張るので、よろしく」と言うスポーツ選手。日本語は、これが主流になっていくのか。採用する側に聞いてみた。厳しい話が返ってくる。「とにかく、パターン化してますね。」あなたの



藤原OB会長から現役委員長に記念品贈呈

長所は、の質問に、「行動力のあること」「創造性の豊かな事」…まではよい。「では、どんな行動をされたのですか」と、丁寧におたずねすると、「……」では、当社について、他にお知りになりたい事は、と質問すると、「……」。つまり想定以外の答えや、質問は、「苦手」なのである。逆に、「御社に入らせていただきましたら、自分的には…」などと、丁寧すぎる言葉遣いも増えている、と言う。

「しかし、この二、三年、きちんと話し方を教わっている学生もいますね。大学で教えられた、と言っていました。話し方で差がつかますね。」

採用に当たって、面接での話し方は、「合否」の重要な判断基準となる。その事に気付いて「話し方」教育を重視する大学もある。少子化時代、就職率は、

大学の大きなセールスポイント。大学は、就職の備校ではないなど言っているご時勢ではないのである。しかし就職戦線は、年々早くなる。年の秋には面接が始まる。以前に比べ、一年早い

「現役と話す会」三年目の秋、一年から参加した三年のS君が、二年生を前にして「この会でのしは、面接でとても役に立った。」と話している。私にとっては、「やる気」にさせる一言だった。

藤原さんセミナーに参加して

53期 宇田川雄十

藤原さんのセミナーには二年間参加させていたしております。時事問題やことばに関する「講義」など、筆記試験の対策になるのは勿論ですが、藤原さんはじめOBのいわゆる「オトナ」な皆さんと直接話しすることが、自然と面接の練習にもなっています。場数を踏むことができ、面接の際に緊張しなくなったと思います。わざわざ時間を割いて、多摩キャンパスまで来ていただいたに感謝しています。これを読まれているOBの皆さんも是非、顔出していただくと現役側としては嬉しい限りです。お時間ありましたら是非、よろしく願います。

最後に、現役ではホームページを開設していません。発表会等のお知らせや活動紹介、会員紹介のコーナーがあります。また、いくつかの過去の映像作品「ウェブ上でのラジオ番組も配信しています。ぜひ度お立ち寄りください。アドレスは最終ページに記載してあります。

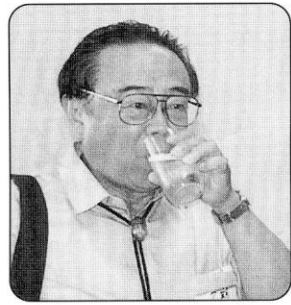
惜別 立崎則定さん

6期 佐久間 良平

訃報は突然であった。平成十五年三月十四日朝七時三十一分、同期の林君からの電話は『立ちゃんが亡くなった』と告げていた。衝撃が脳内を突き抜け愕然とした。

直ちに十和田市の立崎宅に電話した。娘さんが『父は一ヶ月前程から体調の不良を訴えていました。六日に入院しましたが十二日午前五時二十分亡くなりました』と。

呆然とし声がつまり涙腺を刺激し、やっとの思いでお悔やみを述べて受話器を置いた。



は言わず、頼まれれば「嫌」とは言わず、何でも引き受けざるを得ない重宝がられる立場で、関係者は放っておかないでしょう』などと言った。そして『少しは部落の

役員・世話役や林業関係の仕事を、後輩に円滑に委譲し少し楽になったら』などとお節介な事を話した。すると君は『：仕方がないんだよ。今のところ、それは出来ないだよ』と言った。気のせい或少し疲れたような口調に感じた。

四方山話をし、十四時三十分八戸行の開通したばかりの「はやて」に乗るために新幹線ホームに、リックを背負って上って行くのを見送ったのが君の姿を見た最後となった。

昭和三十二年五月十二日、大学の講堂で「新入生歓迎会」が開催され、ラジオ東京（現東京放送）のクラシック番組「希望音楽会」解説野呂信次郎による山田和男指揮・新室内楽協会による『未完成』ほかの曲の公開録音が、一部学生心ない発言で中止となった。小生がこの招致の交渉に当たり実現にこぎつけたが、この不祥事に委員長になって間もない君は水上顧問と共に放送局に陳謝に訪問し誠実な態度で対処した。

放研時代の君の活躍は枚挙にいとまがない。レコード・コンサート用の高出力のアンプの製作、音楽観賞室の設計・器材の選定、そしてOB会への貢献度であった。OB会での集合写真は君の撮影によるものであった。

そのほかには仲間の旅行の企画・幹事・世話役・マイクロボスの運転・観光ガイドと余人をして出来ないことをしていただき、それに甘え「おんぶに抱っこ」をさせてしまいました。

平成四年頃め初夏、君が十和田市にある「県林業試験場」だったかに勤務の時、出張の途中に立ち寄り昼食に「カツ丼」を御馳走になりました。食べながら、その頃軽い言語障害気味に『お互い気を付け



在りし日の立崎さん

よう』と話した事がありました。それが徐々に良くなり、昨年にはほぼ正常化し安心しておりました。三月十六日の告別式、祭壇の君の穏やかな遺影に對面し、君はもうこの世にいない現実を直視し悲しさが募って来た。

：『ちよつと早すぎるのではないか』…。

低くく落ち着いた押さえた感じで『…夕・チ・ザ・キ・です』と、電話での声がもう聞けない。

当分この寂寥感^{せきりょう}は消えることはない。

戒名「法雲院則天定光禅居士」。正に君は『温厚篤実』の方でありました。

立ちゃん、安らかにやすみ下さい。

(平成十五年三月二十六日 記)

◎放研関係、告別式参列者

6期・石河敏子、黒沢 健、林 宏祐、佐久間 良平、7期・内山 明雄、佐藤 明夫

13期の親交

ふるさと紀行

13期 蛭田峯代(旧姓川上)

13期が年に一度、秋たけなわの頃、メンバーの出身地や馴染みの土地に幹事を据えて一泊二日の旅行を始めてすでに八年。

前回もまた、福島(会津)の旅を十月に終了し



13期の同期会



た。

振り返れば初回を飾った熱海での集い(金色夜叉の舞台を抜けて富士を仰いだ箱根山中のドライブ)を皮切りに、ついで濃尾平野西部の大垣(奥の細道終着の地、夜空を焚くかがり火の下で鵜飼い船での一献)

神戸(震災後の淡路島、鳴門の渦潮、神戸市内のルミナリエ)

修善寺(伊豆の踊り子たどり道の隧道散策、星を見上げての樽風呂)

山口・萩・津和野(毛利の威容、維新前夜の倒幕気配、自然があやなす秋芳台)

川越(揃い踏みした御輿と山車の市中練り出しの祭り見物、日原の鍾乳洞の風琴の音色)

鎌倉・江ノ島(中世幕開けの地、夏の喧噪やんだ湘南の海)

福島・会津(見晴るかす会津盆地に幕命虚しく潰えた、鶴ヶ城に白虎隊)

と、旅を重ねながら旧交を温めてきた。いずこも幹事の心こもる企画と案内に、ふるさと自慢も手伝って〇〇ツアーでは叶わぬ穴場へのいざないに、再びこの地を巡り合いと一層の旅情をかきたててくれている。

各地見学の後には、温泉の湯に身を預け、そして宴会、やおら始まるトークは政治・経済・歴史へと飛び交い、錯綜し、さては二次会へと引き継がれ夜明け間近となるのは例年の事。

メンバー各自が卒業後各方面でマーケット・バリユー、ホーム・バリユーを加えてその人柄も温かく、優しく、13期ならではの妙味をどこで熟成したか醸し出している。

来年は久々に東京を中心に母校を訪れる一案盛り込んで、更なる親交深める気配である。

13期の密かなる健在をお伝えし、会員各位のご健勝・ご多幸を祈念致します。



13期の同期会

ACTIVITY

現役アクティビティ

現役紹介

二〇〇四年度運営委員長

54期 赤松卓朗

現在の放送研究会は四年生から一年生まで合わせて会員が九〇人近く、中央大学内でも有数の規模のサークルになっています。活動内容としてはまず、埼玉県入間地域のコミュニティFM局、FMチャッピー（77・7MHz）の水曜日の深夜二十三時から二十四時に放送されている「Campus Hot Wave」の番組を制作しています。「Campus Hot Wave」では、一週ずつ交代で各大学が一時間番組を制作して、放研の制作する「Central ZOO」は四週に一回、放送されています。番組内に六つのコーナーを設けて企画から編集まで全てを担当し、苦勞の連続ですが大学生にしか作れない番組を目指し意欲的に制作しています。また、中大広報課と連携して、中央大学内の電子掲示板で放送されるニュースの制作を行っています。ジャンルはサークル紹介から講演会、箱根駅伝の取材まで、さまざまです。学園祭期間中は屋外にサテライトスタジオを作ってDJや企画番組のステージを上演したり、出店を出したりしています。他にも、スポーツ大会や有志による旅なども随時行っています。体外的な面では他大学と合同で番組発表会を行ったり、他大学の放送研究会の学園祭イベントに参加したりと、一年を通してさまざまな活動をしています。

また、放研では、普段の活動の成果を発表する場として、春と冬の年二回、OBのみなさん、他大

学・一般の方向けに番組発表会を行っています。夏と秋の年二回には、サークルの会員向けの内部発表会を予定しています。今年は、去る四月二十五日に春の番組発表会を行い一〇〇人以上の来場があり、特に数多くのOBの方に来ていただき現役としては何よりの励みになりました。十二月には冬の番組発表会を予定しています。詳細が決まり次第、OB会のホームページやメール等でご案内いたします。会員一同、OBのみなさまのご来場お待ちしております。

さて、そんな中、最近、作品制作の様子にも変化がありました。いわゆる編集機を使つてのリニア編集からパソコンを使うノンリニア編集へと移項がありました。ですが、やはり編集時に数人でモニターを囲みながら「このシーンのタイミングはこうだ。」「この効果の方がいい。」と議論しあう姿はリニア編集をしていたころと変わっていないようです。先ほど書きました番組発表会にも変化がありました。学内に学生総合会館（Cスクエア）が完成したことです。この施設は学生の文化活動の支援を目的として作られ、地上五階建てで会議室、トレーニングルーム、音楽練習室、そして照明など各種設備をそろえた中小二つのホールがあります。今まで学内の普通教室で番組発表会を行うことが多かったのですが、このホールで行えるようになりました。

OB会との関わりとしては、昨年度もゴルフコンペに参加させていただきました。また、OB会会長である藤原尚武さん（8期）に多摩キャンパスまで来ていただき、主にマスコミ就職に向けたセミナーを月に二回のペースで開いていた聞いています。このセミナーは今年で四年目になり、私たちは「藤原さんセミナー」と呼ばせていただき、就職に関して

だけでなくさまざまなお話もうかがえ、OBの方とこういった機会を持つことは歴史ある放送研究会の財産のひとつであると思います。前委員長の宇田川雄大の「参加しての感想」は3ページに記載されています。



現役全員集合

ACTIVITY

放研ゴルフ同好会レポート

4期 榛葉 肇

故水上会長と砂岡、楢崎（宏）、富田の諸兄らのご努力で、「放研OB会水上杯ゴルフコンペ」が発足。一九九八年十一月三日に第一回を益子C.Cで開催した。それから五年が過ぎた。近く十二回目のコンペがおこなわれる予定だ。



また、惜しくも亡くなられた水上会長を「偲ぶゴルフ会」が毎年2月22日におこなわれている。

放研は創立して五十年、OB会員も上は七十代から下は二十代と幅広い年齢層の集りとなっているが、ことゴルフ会については、五十歳以下のOBの参加は希れと言ってよい。

現役職業にあつて、一番多忙な年代とあれば、参加は無理だろうか？ ただ上述したように年3回（二、五、十一月）あるコンペ、若手OBの皆さん、ときには参加して下さい。

加賀見会長や現役学生の参加もあつて、芝生の上で新たな交友が生れるのも愉快なものだ。



ゴルフ部会（平成16年2月 西武園で）

放研スキー同好会レポート

12期 高橋俊次

今シーズン三回目の放研スキーが本年三月十四日〜十六日、志賀高原で行われた。今回は阿部、伊東、具志、米山、高橋の常連メンバーに加え、10期の渡辺新也さんがスキーはしなかったが初参加、大いに

盛り上がった。

前日まで天気が悪かった志賀高原、我々が滞在した三日間はこれ以上ない晴天となり、絵に書いたような春スキーとなった。日本一広大なスキー場を部のエリアを除いて全員で滑りまくった三日間だった。当初心配されていた米山君もそんな杞憂はないのそのとばかり、脱落することなくみんなと一緒に滑った。志賀は初めての伊東さん、三十数年振り具志君も志賀のすばらしさにすっかり惚れ込んで、まった。志賀の春スキー満喫の放研スキーだった。スキーのスも知らず去年から始めた米山君、今シーズン志賀を終わって見れば初心者卒業、初級から中級へ入りかける勢い。格段の進歩に全員、目を見張った。今シーズン、二十日間滑ったという。こういう努力あればこそだが。放研スキーのヨーロッパ遠征も近しと思えてくる進歩である。

古風な滑りに磨きをかけるべく奮闘中の具志君この志賀では古風さに新技術の要素も加え、スピドと力感に大きな進化が見られた。日本有数の名急斜面コース、ジャイアントを滑らかに滑走した。には驚いた。昔日のスキーフリーク、完全復活近である。

エンジンイススキーイングの伊東さん、ダイナミクススキーの達人阿部さん、自称華麗スキーの高橋それぞれに確実に進歩がみられた。

今回の志賀も含め、車山、白馬と三回にわたる放研スキーは楽しく有意義なうちに終わった。そしてまた来シーズンガンバルゾツという気になって志賀あとにしたことは放研スキーの成功を物語っている。来シーズンこそ参加してもらいたい人はいっぱい



スキー部会

る。冬は寒いなどといって家に閉じこもらず雪の中
 でみんなと交流しましょう。
 それではみなさん、次の冬こそは雪と温泉と酒と
 人情で交流しましょう。

CD（保存テープ）頒布のご案内

創立50周年事業で、放研永久保存テープをCD化しました。このCDを、下記により頒布します。

1. 申込み方法 「CD一覧」のCD番号を同封の葉書に明記のうえ、投函願います。
2. コピー費用 CD一枚につき1,000円（送料込み）とします。（CDと一緒に、振込用紙を送りますので、CD到着後振り込んで下さい。）

次回総会のご案内

1. 日時 平成16年7月17日（土曜日）
15時30分から総会
16時頃から懇親パーティー
2. 場所 品川プリンスホテル
東京都港区高輪4-10-30
3. 会費 1期～25期 12,000円
26期～35期 10,000円
36期以降 8,000円
4. 出欠 同封の葉書で6月30日までにお知らせ下さい。

ホワイトボード

ホームページのアドレスをお知らせします。是非ご覧下さい。

12期掲示板（管理人 12期 砂岡茂明氏）

<http://6418.teacup.com/houken/bbs>

O B 会ホームページ（管理人 現役委員長）

<http://paqe.freett.com/houkenob/index.htm>

現役のホームページ

<http://www.chkweb.com/>

12期ホームページ（管理人 12期 安藤一夫氏）

<http://chk12.hp.infoseek.co.jp/>

編集後記

五十周年記念行事を開催してから二年近くが過ぎようとしております。

記念事業では、保存テープのCD化に予想以上の時間がかかりました。

しかし、それぞれの世代の智慧と汗の結晶であるテープが劣化し、再生不能になるのは、一所懸命に作品を作った人たち、また学園紛争などの困難な時期にも大切に保管を続けてきた人たちに申し訳ないの思いでいっぱいでした。

そして何よりも、「もう一度聞いてみたい」という人たちの声に応えるために、CD化を行いました。

皆さん是非聞いてみて下さい。

記念論文でも語られているとおり、世の中は、デジタル化の進展が著しく、衛星、インターネット等で無限に近いコンテンツが入手できる時代に入っていますが、思い出のテープは何物にも替えがたい貴重なものと考えます。（砂）